KER経済情報 2012 10 No.271

P06

P17

CONTENTS

南の風 01 南への風に託す鹿児島の未来
丹下　甲一／鹿児島県副知事

調査レポート 02 加速する再生可能エネルギー（中）
～風力・地熱発電の現状と課題～

調査レポート 08 一段落した県外客の観光・レジャー利用
九州新幹線 全通１年半後の利用状況調査

企業紹介 16 南日本酪農協同株式会社
酪農家とともに安心・安全届ける

講演録 20 PPPの可能性
―朽ちるインフラをどう乗り切るか―
根本　祐二 氏／東洋大学経済学部 教授

トピックス 24 消費増税の影響を考える（中）
期待される景気下押し緩和策

経営情報 26 おいしいお茶の入れ方・出し方
スムーズな商談に一役

ビジネス法務Q&A 28 デザインはどうやって守る？
（商標と意匠の関係）

県内の景況 30 経済概況

指標 33 主要経済指標

39 主要金融指標

宮崎県の景況 40 経済概況

43 経済指標

経済日誌 44 鹿児島県内

45 全国・九州

ビジネスインフォメーション 46 大口ビルサービス・雅叙苑観光・クリーン産業・
堀口園・松永工業 ・旅行人山荘

アジアインフォメーション 48 スポーツを通した鹿児島への誘客

歴史まち歩き 49 鹿児島最北端の島・獅子島を訪ねて

BOOKs 50 今月の一冊
９月のベスト10

ご案内 51 KERビジネスセミナー 2012年10・11・12月開催分

52 KER会員サービスのご案内
KER法人向け情報サイト活用術

53 経済講演会のご案内

加速する再生可能エネルギー(中)

～風力･地熱発電の現状と課題～

【要　約】

・風力発電のポテンシャルは高く、非住宅系の太陽光の 15 万㍍に対し、陸上風力が 28 万㍍、洋上風力は 157 万㍍と今後大きな可能性を秘める。

・ただし、既存送電網との接続や、騒音、生態系への影響、景観など設置に向け解決しなければならない問題が多いことから、普及促進のハードルは高い。陸上に比べ、制約が少ないといわれる洋上風力も、漁業権や送電線敷設コストなど課題は少なくない。

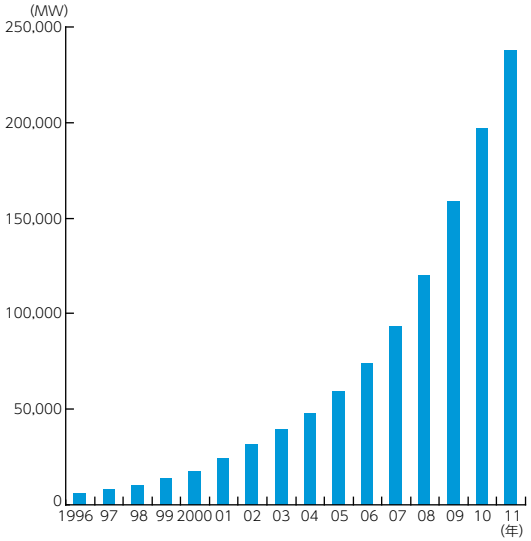
・一方、地熱発電をみると、日本はインドネシア、米国に次ぐ世界 3 位のポテンシャルを有する。また、安定的に発電できる地熱はベース電源としても期待されている。

・しかし、地熱に適した地域が国立公園内に多く、また事前調査に多大なコストを要することや、住民、温泉業者などとの協議に時間を要することなどから、普及は進んでいない。

・政府は、洋上風力、地熱発電などの割合を 30 年には現在の 6 倍に高める新たな再生可能エネルギーの導入目標を示した。発電コストの上昇による電気代上乗せも懸念されているが、エネルギーの安定調達、大規模災害への備えなど、多様な電源を確保する必要性は高まっている。風力・地熱ともに本県のポテンシャルは高く、今後の展開が期待される。

前月号では、12 年 7 月の固定価格買取制度運用開始後、急速に普及する太陽光発電について述べた。今回は、太陽光発電よりもポテンシャルが高いといわれながら、開発案件が少ない風力発電、地熱発電を取り上げる。

図表1　世界の風力発電総設備容量



資料)新エネルギー･産業技術総合開発機構(NEDO) ホームページ

風力発電

世界では中国、欧米が主流

2011 年の世界の風力発電総設備容量は 23 万 7,669㍍と、前年の 19 万 7,039㍍から 20.6％伸びた（図表 1）。1997 年以降の推移をみても、毎年、前年の 20％以上伸び、2011 年は 1996 年の 40 倍弱となっている。

図表2　風力発電の国別導入累計(2010年末)

国名	導入量 (MW)	シェア (%)
中国	42,287	21.8
米国	40,180	20.7
ドイツ	27,214	14.0
スペイン	20,676	10.6
インド	13,065	6.7
イタリア	5,797	3.0
フランス	5,660	2.9
英国	5,204	2.7
カナダ	4,009	2.1
デンマーク	3,752	1.9
ポルトガル	3,702	1.9
日本	2,304	1.2
その他	20,540	10.6
合計	194,390	100

資料)2011年度　エネルギー白書

一段落した県外客の観光・レジャー利用

九州新幹線 全通1年半後の利用状況調査

県内は「生活新幹線」として定着

【要　約】

・当研究所は、鹿児島中央駅において九州新幹線利用客に対するアンケート調査を実施し、全通１年半後の利用状況について調査結果をまとめた。

・他県居住者の利用割合は 48.9%、本県居住者の利用割合は 51.1%となり、全通以降の調査では初めて他県居住者の利用割合が本県居住者の利用割合を下回った。他県居住者の割合は１年前調査（2011 年９月）の 56.4%より 7.5ポイント減少した。

・他県居住者の利用目的は「ビジネス」が 39.0%と最も多く、全通以降の調査では初めて「観光・レジャー（32.3%）」を上回った。

・利用頻度をみると、調査対象全体、本県居住者、他県居住者のいずれも「初めて利用」以外（「複数回利用」「定期的に利用」「ほぼ毎日利用」の合計）の割合が１年前調査より増加している。

・他県居住者の「観光・レジャー」での有料宿泊は 85.9%と、全通以来高い水準で推移している。一方で、「ビジネス」での日帰りは 34.3%となり、全通以来、ウエートが高まっている。

利用状況調査の概要

１．調査日時

2012 年９月５日（水）、７日（金）、８日（土）、９日（日）の４日間、
９時～ 10 時 30 分、
14 時～ 15 時 30 分、
18 時 30 分～ 20 時の各時間帯

２．調査場所

鹿児島中央駅の新幹線改札内コンコース

３．調査対象・方法

調査期間中の九州新幹線乗降客から無作為抽出による直接聞き取り

４．有効回答　　1,783件

はじめに

九州新幹線鹿児島ルートの全通から１年半が経過した。JR 九州によると、２年目を迎えた九州新幹線の利用者数（熊本―鹿児島中央間）は前年同期比でほぼ横ばいで推移している。４、５月は前年と比較しても好調であったが、７月以降は前年割れが続いているという。

当研究所では、JR 九州のご協力のもと、同ルート部分開業１年後から毎年３月、また昨年は全通半年後の９月にも九州新幹線の利用状況を把握し、今後の観光振興などに生かしてもらうことを狙いにアンケート調査を実施した。今回は、１年前調査（2011 年９月）から１年が経過したため、九州新幹線の利用状況にどのような変化が起こっているか調査し、県内企業の事業活動などに役立ててもらうことを目的とした。